

2021.3.11 プレスリリース
なごや日本博事業実行委員会

名古屋の堀川沿いを舞台とする、新たな現代アートのイベント 「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」 全容を発表します

なごや日本博事業実行委員会は、「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」の全容を発表します。
「ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ」は、名古屋台地、熱田台地の縁（へり）となる、名古屋城から熱田の堀川沿いを舞台に開催する新たな現代アート、メディア・アートのイベントで、愛知県で唯一「令和2年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業」* に採択された事業です。

*日本博：<https://japanculturalexpo.bunka.go.jp/>

本イベントは、名古屋城から熱田の堀川沿いの3エリアで、展示やイベントを開催します。
名古屋城エリアでは、日栄一真 + 竹市学による一夜限りの映像と音楽のパフォーマンスと、「名古屋城金鯨展」連携事業として、五十嵐太郎と市原えつこによるシンポジウムを開催します。
納屋橋エリアでは、井藤雄一、佐藤美代（音楽：BONZIE）、さわひらきが、まち中の建物の壁面などで映像作品を展示し、川沿いの広場にはインフォメーションとしてMOBIUMのバスが停車。また、グランドレベルによるイベント「パブリックサーカス」や、アーティストやディレクターによるトークイベントを開催し、「なやばし夜イチ」が特別出店します。
熱田・宮の渡しエリアでは、平川祐樹が宮の渡し公園と丹羽家住宅（旧伊勢久）でインスタレーションと映像作品を展示し、Barrack（近藤佳那子・古畑大気）+ 阿野太一は丹羽家住宅（旧伊勢久）で作品展示とカフェバーを展開。また、あつた宮宿会による「宮の浜市」が特別出店します。
会期中は、開催日に限り会場を結ぶ船が堀川を運行。堀川の流れに沿って、アート作品とともに、会場周辺の地理や歴史にも触れることができます。

|開催概要|

イベント名 | ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

会期 | 2021年3月12日（金）～ 3月28日（日） *期間中の金土日に開催

会場 | 名古屋城エリア、納屋橋エリア、熱田・宮の渡しエリア

開催時間 | 11:00～20:00

*屋外の映像作品は、サウンドインスタレーションに加えて、日暮れとともに映像が立ち上がってきます。

また、作品によって開催時間が異なりますので、詳細はWebサイトをご覧ください。

観覧無料（名古屋城入場料、乗船料は別途）

主催 | なごや日本博事業実行委員会

【構成団体】名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋商工会議所、中日新聞社

助成 | 令和2年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(文化庁)

企画体制 | ディレクター：秋庭史典、河村陽介、伏木啓、山田亘、江坂恵里子

Web | <https://streamingheritage.jp/>

SNS | [twitter] @S_Heritage758 [Instagram] @streamingheritage

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期や実施内容等が変更となる場合があります。

|お問合せ|

なごや日本博事業実行委員会事務局

〒460-0003

名古屋市中区錦二丁目 11-24 長者町コットンビル 2A

電話：052-232-7260

E-mail: voice@streamingheritage.jp (事務局)

広報に関するお問合せ：

E-mail: press@streamingheritage.jp (担当:江坂、出会)



City of design NAGOYA
Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008



[ステートメント]

ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ

名古屋台地と熱田台地のへりには、文化資源や観光資源がたくさんあります。名古屋城から納屋橋を経て宮の渡し、さらには名古屋港まで。これらの資源をひと続きに結んでいるのが堀川の流れstreamです。この流れに現代アートが光をあて、名古屋の歴史・文化遺産heritageをリアルタイムに再生streamingする。それがストリーミング・ヘリテージの試みです。この流れは名古屋城を起点に電車でたどれば陶磁器の産地瀬戸にまで至ります。

それは他方で、ものづくり王国名古屋、同じ台地と海のあいだに根づいたデジタルメディア文化の流れ—名古屋城・白鳥公園・名古屋港を会場とした世界デザイン博に始まり、名古屋国際ビエンナーレ（アーテック）、artport/MEDIASELECT、電子芸術国際会議、世界グラフィックデザイン会議、ユネスコ創造都市への加盟と続く—の再生でもあります。

国内の著名アーティストによるインスタレーション、識者を招いて行うシンポジウム、最先端技術を用いたパフォーマンスを通し、歴史と現在をインタラクトさせ、名古屋独自の文化芸術の魅力を世界に向けて発信する。それにより、社会経済活動再活性化へのきっかけにつながることを目指します。

[企画背景]

【メディア・コンシャス=メディアへの意識】

ストリーミング・ヘリテージ（遺産再生）。その背景にあるのが、「メディア・コンシャス」という考え方です。メディアとは媒介、すなわち「何かと何かをつなぐもの」ですが、そうしたメディアを意識することが、「メディア・コンシャス」です。ではなぜそれが重要なのでしょうか？

【堀川こそメディアである】

それは、堀川こそ、名古屋城と港をつなぐメディアであり、このメディアこそ、名古屋というまちの原点だからです。堀川を意識することが、名古屋の歴史とその魅力を再生する第一歩になります。

【メディア・アートによる再生】

またここに、なぜメディア・アートなのか？という問いへの答えもあります。なぜなら、メディア・アートとはまさに、メディアとの距離に自覚的なアートのことだからです。わたしたちの生活に浸透し見えなくなっているさまざまなメディアを意識させ、それを感覚できるものにする。それこそが、メディア・アートのひとつの役割なのです。

【もうひとつの遺産再生=メディア・コンシャスなアーカイブの構築へ】

ストリーミング・ヘリテージでは、名古屋城と港のあいだに生まれたもうひとつの遺産、すなわちメディア・デザインとメディア・アートの遺産の再生も目指します。1989年の世界デザイン博以降現在まで続くその歴史をアーカイブ化し、ものづくりのまちに根づいたデザインとアートの流れを再生します。

[参加アーティスト]

■ 井藤雄一

メディアアート + パフォーマンス



井藤雄一《Driven by Error 展 [RTDex]》2017

映像や音などのデジタルメディアを意図的に誤用してノイズやグリッチと呼ばれるデータのエラーを表出させる手法に注目し、作品を制作しているメディア・アーティスト。誰もが普段から身の回りで利用しているデジタルメディアの異なる姿を意図的に表出させることで、あったかもしれない別の世界を提示する。

展示〈納屋橋エリア〉
場所：天王崎橋

■ グランドレベル (田中元子+大西正紀)

コミュニケーションデザイン/まちづくり



グランドレベル《パブリックサーカス》2017

「1階づくりはまちづくり」という考えのもと、その地域の人々が小さな主役になれるような空間づくり、施設づくり、まちづくりを全国で手がける。「喫茶ランドリー」オーナー。今回は、自分が好きなことをまちでふるまう「私設公共」=「マイパブリック」を展開。

イベント〈納屋橋エリア〉
「パブリックサーカス」
日時：3月13日(土)、14日(日) 他
場所：納屋橋の広場 数カ所
※日程等の詳細は後日お知らせします。

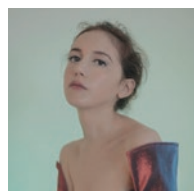
■ 佐藤美代 (音楽: BONZIE)

アニメーション、音楽



佐藤美代(音楽:BONZIE)《alone》2020

砂絵アニメーションやペイントオングラス(ガラス板の上に絵の具で描いた絵をコマ撮りする手法で制作するアニメーション)、2Dアニメーションなどで作品を制作する佐藤美代と、アメリカの歌手、作曲家、マルチプレイヤーのBONZIEが共作した作品を上映する。



BONZIE

展示〈納屋橋エリア〉
場所：納屋橋エリアの壁面

[参加アーティスト]

■ さわひらき

映像インスタレーション



さわひらき《/home》2021

自身の心象風景や記憶の中にある感覚といった実態のない個人的な領域を、映像・立体・平面作品などで構成されたインスタレーションで表現する映像作家。映像や立体造形物を巧みに操り再構成することで、現実にはありえない光景を描きながら、どこか親しみを感じさせる世界を生み出し、見る者の想像力に働きかける。

展示〈納屋橋エリア〉

場所：錦橋、みのりの広場の壁面

■ Barrack (近藤佳那子・古畑大気) + 阿野太一

フード+アート



Art Space & Cafe Barrack

瀬戸市に拠点を持つBarrack (近藤佳那子・古畑大気) と写真家・阿野太一のコラボレーション。明治期に世界へ向けた瀬戸の陶磁器輸送に大きく貢献した瀬戸電気鉄道と、水運のターミナル駅があった堀川の関係にスポットを当てる。陶磁器が運ばれた堀川河口に位置する、かつて東海道の宮宿で旅籠屋として使われていた建物を使い、瀬戸在住の写真家・阿野太一をゲストアーティストに迎え、瀬戸と堀川、宮宿の歴史の一端を読み解く作品+カフェバーを展開する。

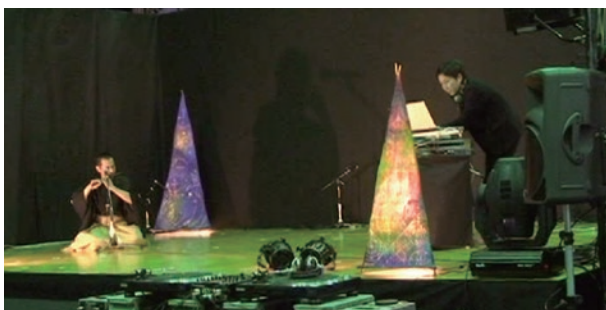
展示〈熱田・宮の渡しエリア〉

場所：丹羽家住宅 (旧伊勢久)

カフェバー営業日時：3月12日 (金) -28日 (日) の金土日
12:00-20:00 (L.O.19:30)

■ 日栄一真 + 竹市 学

パフォーマンス



テクノロジーによるサウンド表現の可能性を追求し作品を制作しているサウンド・アーティストの日栄一真と、能楽師藤田流笛方として世界各国で活動し、重要無形文化財 (総合指定) 認定、他数々の賞を受賞している竹市学。名古屋城の二之丸広場にて、一夜限りの映像とサウンドによるパフォーマンスを開催。

パフォーマンス〈名古屋城エリア〉

「Re:No.3」

日時：3月20日 (土・祝) 18:30-19:00

会場：名古屋城二之丸広場 ※雨天時は名古屋能楽堂で開催

料金：名古屋城への入場料500円が必要

定員：50名

※要予約。五十嵐太郎×市原えつこのシンポジウムとセットでのお申し込みとなります。

※先着順での受付となります。定員に達し次第受付を終了いたします。

※会場が名古屋能楽堂になる場合は前日にメールにてご連絡いたします。

※パフォーマンスとシンポジウムは後日映像アーカイブとして配信予定です。

[参加アーティスト]

■ 平川祐樹

映像インスタレーション



平川祐樹

《TWENTY FIVE THOUSAND YEARS TO TRAP A SHADOW プラン》2021

メディア考古学的な視点を通して、場所や物質に宿る時間を即物的に呈示する映像作家。近年では特に、物質の燃焼や蒸留、浄化といった錬金術的手法を使い、古い映画フィルムから銀を抽出したり、フィルムの灰を平面と置き換える作品を制作している。ミニマルに落とし込まれたそれらの作品は、静謐さと共に儚さを併せ持っている。

展示〈熱田・宮の渡しエリア〉

場所：宮の渡し公園、丹羽家住宅（旧伊勢久）

■ MOBIUM

メディア・ラボ



MOBIUM 《MOBIUM》

MOBIUMはバスを改造した移動型のミュージアム／ラボラトリーである。

2005年から、都市部や山間部を問わず、停車可能な場所であればどこでも作品の展示やワークショップ、音楽の公演、映像上映など表現活動を行っている。この移動空間でさまざまな地域に表現活動を届け、地域間の文化交流を行っている。

インフォメーション〈納屋橋エリア〉

場所：納屋橋ゆめ広場

※3/20（土）はMOBIUMの展示はありません

[イベント]

[トーク]

■ 堀川から見る名古屋：過去から未来をストリーミングする(仮)

日時：3月15日（月）18:00～19:30

会場：モアチェモアチェ（旧ほとりす）

ゲスト：竹中克行（愛知県立大学教授 | 地理学）、秀島栄三（名古屋工業大学 | 土木計画）、
クレメンス・メッツラー（イラストレーター / デザイナー）

進行：河村陽介（ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだディレクター）

定員：30名（要予約）

※先着順での受付となります。定員に達し次第受付を終了いたします。

[イベント]

[シンポジウム]

「名古屋城金鯨展」連携事業

■ 五十嵐太郎 × 市原えつこ

日時：3月20日（土・祝）19:00-20:30

会場：名古屋城二之丸広場 ※雨天時は名古屋能楽堂で開催

定員：50名

※要予約。日栄一真+竹市 学のイベントとセットでのお申し込みとなります。

※先着順での受付となります。定員に達し次第受付を終了いたします。

※会場が名古屋能楽堂になる場合は前日にメールにてご連絡いたします。

※パフォーマンスとシンポジウムは後日映像アーカイブとして配信予定です。

○五十嵐太郎 プロフィール



1967年生まれ。建築史・建築批評家。現代、東北大学大学院教授。

1992年、東京大学大学院修士課程修了。博士（工学）。

あいちトリエンナーレ2013芸術監督、第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展日本館コミッションナーを務める。「インポッシブル・アーキテクチャー」「窓展：窓をめぐるアートと建築の旅」「装飾をひもとく～日本橋の建築・再発見～」などの展覧会を監修。

第64回芸術選奨文部科学大臣新人賞、2018年日本建築学会教育賞（教育貢献）を受賞。

『建築の東京』（みすず書房）、『モダニズム崩壊後の建築—1968年以降の転回と思想—』（青土社）ほか著書多数。

○市原えつこ プロフィール



Credit: Yves Krier

1988年、愛知県生まれ。メディアアーティスト、妄想インベーター。早稲田大学文化構想学部表象メディア論卒業。日本的な文化・習慣・信仰を独自の観点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を示す作品を制作する。アートの文脈を知らない人も広く楽しめる作品性と日本文化に対する独特のデザインから、国内外の新聞・テレビ・ラジオ・雑誌等、世界中の多様なメディアに取り上げられている。第20回文化庁メディア芸術祭エンターテインメント部門優秀賞、アルス・エレクトロニカで栄誉賞を受賞。近年の展覧会として、「デジタル・シャーマニズム—日本の吊いと祝祭」（NTTインターコミュニケーション・センター [ICC]、東京、2016-2017）、「Ars Electronica Festival」、「文化庁メディア芸術祭」など。2025年大阪・関西万博日本館の基本構想策定クリエイター。

[アーティストトーク]

■ さわひらき × 秋庭史典

日時：3月26日（金）19:00-20:00

会場：モアチェモアチェ（旧ほとりす）

定員：30名（要予約）

※先着順での受付となります。定員に達し次第受付を終了いたします。

[マルシェ]

■ なやばし夜イチ

日程：3月12日（金）、26日（金）16:00-20:00

会場：錦橋～納屋橋の遊歩道

■ 宮の浜市（あつた宮宿会）

日程：3月21日（日）11:00-15:00

会場：宮の渡し公園

[企画体制]

○ディレクター

■ 秋庭史典



名古屋大学大学院情報学研究所准教授。専門は美学・芸術学。博士（文学）。著書に『絵の幸福—シタラトモアキ論』（みすず書房 2020年）、『あたらしい美学をつくる』（みすず書房 2011年）。分担執筆に『美学の事典』（丸善 2020年）、『人工知能学大事典』（共立出版 2017年）。共著に『食（メシ）の記号論』（日本記号学会編、新曜社 2020年）、『人工知能美学芸術展 記録集』（人工知能美学芸術研究会、2019年）など。訳書にリチャード・シュスターマン『ポピュラー芸術の美学—プラグマティズムの立場から』（勁草書房 1999年）などがある。美学会委員、日本記号学会理事、日本触覚学会世話人、文化庁メディア芸術祭アート部門審査委員。

■ 河村陽介



情報メディアを用いたインタラクティブ作品の制作やワークショップ企画などを行う。近年はプロジェクト型の企画を多く手がけており、2005年から主宰する移動型ラボ「MOBIUM」では、「shoboshobo 2005」「MOBIUM TOUR 2019 移動する研究室」「TOYOTA HACK CAMP」などを企画。2011年から主宰する「NODE-Lab」では、ワークショッププログラム「WORKSHOP SHOWCASE」日韓交流事業「CONSONARE」などを企画。あいちトリエンナーレ2016では参加型の作品制作プロジェクト「Locus Faber Tsukulocca」のプロジェクトリーダーを務めた。

■ 伏木 啓



時間意識における線形性と非線形性の重なりを主題として、複数のメディアを扱ったパフォーマンス / 舞台作品や、特定の場所の歴史的、空間的特徴にアプローチした映像インスタレーションなどを制作している。2006年～08年まで、DAAD (Deutsche Akademische Austauschdienst / ドイツ学術交流会) 奨学金を受賞しドイツに滞在、Bauhaus-Universität Weimar (バウハウス大学ワイマール) MFA 課程を修了。京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程 満期退学。現在、名古屋学芸大学 メディア造形学部 映像メディア学科 准教授。

■ 山田 亘



1964年名古屋市生まれ。1993年米国Ohio University大学院 MFA(写真)。PAC代表。長者町スクール・オブ・アーツ代表。アートセンター[Yojo-Han]ディレクター。写真作品の他、媒体の有り方を意識した作品を発表、特に新聞等の紙媒体の仕組みや位置づけをベースにしたプロジェクト作品に注力。あいちトリエンナーレ2016 国際展作家。国内外でアートプロジェクト、展覧会、レクチャーなどを展開。ヒューストン国際写真祭(1994)、第2回サンパウロ国際写真ミーティング(1995)[MEDIALOGUE] 東京都写真美術館(1998)、[シンガポール国際写真フェスティバル](2008)、DMY International Design Festival ドイツ(2011)、サンティエニス国際デザインビエンナーレ(2013)、セルビア国際写真フェスティバル(2016)、[大愛知なるへそ新聞社]プロジェクト、グラーツ国際デザインフェスティバル オーストリア(2019)、[ART FARMing] 愛知(2019)、[ART FARMing TV] ディレクション(2020-現在)

■ 江坂恵里子



ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会 プログラム・ディレクター/名古屋市観光文化交流局文化振興室国際交流専門員(文化振興)
国際デザインセンターで海外ネットワークディレクターとして、国際交流事業や若手クリエイター育成プロジェクトやフォーラム・展覧会を企画・運営。2009年より名古屋市のユネスコ創造都市ネットワークデザイン都市推進事業を担当。2016年より現職。

○メインビジュアル

■ 服部一成

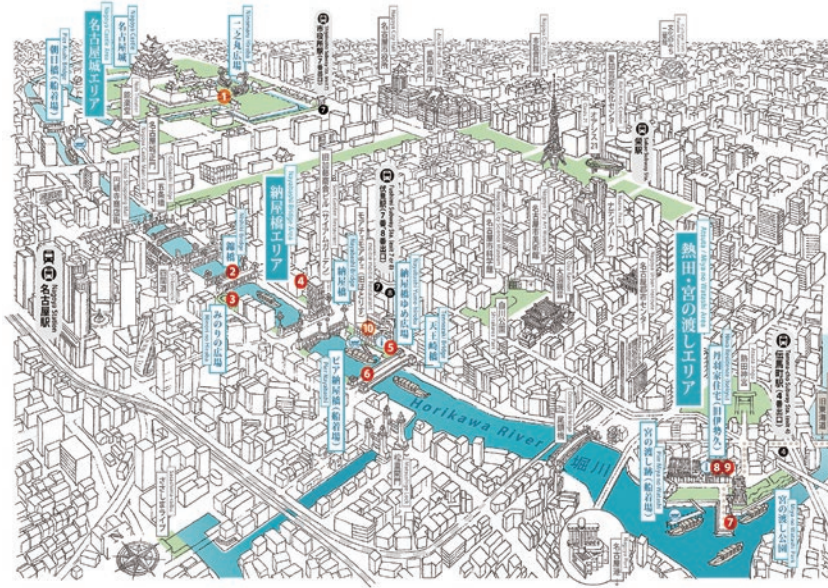


グラフィックデザイナー
1964年東京生まれ。1988年東京芸術大学美術学部デザイン科卒業、ライトパブリシティ入社。2001年よりフリーランス。主な仕事に、「キュービーハーフ」「JR東日本」の広告、雑誌『流行通信』『here and there』『真夜中』のアートディレクション、エルメスのイベント「petit hのオブジェたち」の会場デザインや「夢のかたち Hermès Bespoke Objects」のグラフィック、「三菱一号館美術館」「新潟市美術館」「弘前れんが倉庫美術館」のVI計画、「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」「声ノマ 全身詩人、吉増剛造展」「ホンマタカシ ニュー・ドキュメンタリー」などの展覧会のポスター・告知物・図録、ロックバンド「くるり」のアートワーク、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』などのブックデザインがある。毎日デザイン賞、亀倉雄策賞、東京ADC賞、東京TDCグランプリなどを受賞。

[アクセス]

○全体マップ

全体マップは会場で配布します



イラストレーション：クレメンス・メッツラー

- ① [パフォーマンス] 日栄一真+竹市 学
[シンポジウム] 五十嵐太郎、市原えつこ
- ②③ [展示] さわひらき
- ③ [マルシェ] なやばし夜イチ
- ④ [展示] 佐藤美代 (音楽: BONZIE)
- ⑤ [インフォメーション] MOBIUM
- ⑥ [展示] 井藤雄一
- ⑦ [マルシェ] 宮の浜市 (あつた宮宿会)
- ⑦⑧ [展示] 平川祐樹
- ⑨ [展示] Barrack (近藤佳那子・古畑大気) + 阿野太一
- ⑩ [アーティストトーク] さわひらき×秋庭史典
[トーク] 堀川から見る名古屋:
過去から未来をストリーミングする (仮)

○船の運行



開催日に限り、堀川の朝日橋から納屋橋、納屋橋から宮の渡しまでの2区間で船を運行いたします。

*詳細はWebサイトをご確認ください。

○名古屋城エリア

近世以降の名古屋の文化や経済は、名古屋城下町が中心となって発展しました。名古屋城の正面 (南) には今の名古屋のまちづくりの基礎となる、基盤割と呼ばれる町人の住む町がつくられ、水運の要としてまちを支えたのが堀川です。堀川は城下町への生活物資の運搬水路として活躍しました。堀川開削当初の北端は朝日橋の堀留で、それまで名古屋城の堀の水源は湧水でまかなわれていたといわれています。



会場アクセス(最寄駅)

 名古屋市営地下鉄名城線
市役所駅7番出口
または  朝日橋 (船着場)

○納屋橋エリア

名古屋城と熱田の海をつなぐ堀川には、江戸時代に架けられた7つの橋があります。納屋橋は、名古屋城築城とともに堀川が開削されたときに架けられ、付近の地名をとって名付けられました。江戸時代、全国有数の焼き物産地であった瀬戸の焼き物は、矢田川・庄内川などを通じて堀川の脇にあった尾張藩の御蔵 (現在の天王崎橋、三蔵通付近) に集められ、検品された上で全国に出荷されていました。



会場アクセス(最寄駅)

 名古屋市営地下鉄東山線・鶴舞線
伏見駅7番8番出口
または  ピア納屋橋 (船着場)

○熱田・宮の渡しエリア

現在の熱田周辺は、国道やビルに囲まれ海から遠く離れていますが、江戸時代の初め頃、東海道唯一の海上路であった宮の渡し前には伊勢湾が広がり、海運の拠点として栄えていました。寛永2年 (1625年) には常夜灯が建てられ、船の出入り口の目印に。江戸時代以降、次第に新田として開発が進み、海は陸から離れていきました。その新田も今では工場や住宅地へと姿を変えています。

会場アクセス(最寄駅)

 名古屋市営地下鉄名城線
伝馬町駅4番出口
または  宮の渡し跡 (船着場)

[開催概要]

イベント名 | **ストリーミング・ヘリテージ | 台地と海のあいだ**

会期 | **2021年3月12日(金) ~ 3月28日(日)** *期間中の金土日開催

会場 | **名古屋城エリア、納屋橋エリア、熱田・宮の渡しエリア**

開催時間 | **11:00 ~ 20:00**

*屋外の映像作品は、サウンドインスタレーションに加えて、日暮れとともに映像が立ち上がってきます。
また、作品によって開催時間が異なりますので、詳細はWebサイトをご覧ください。

観覧無料 (名古屋城入場料、乗船料は別途)

主催 | **なごや日本博事業実行委員会**

[構成団体] **名古屋市、ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会、
公益財団法人名古屋まちづくり公社、名古屋商工会議所、中日新聞社**

助成 | **令和2年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業(文化庁)**

協力 | **愛知県陶磁美術館**

Web | **<https://streamingheritage.jp/>**

Twitter | **@S_Heritage758**

Instagram | **@streamingheritage**

※新型コロナウイルス感染症の状況等により、会期、実施内容等が変更となる場合があります。

[企画体制]

ディレクター | **秋庭史典、河村陽介、伏木啓、山田 亘、江坂恵里子**

メインビジュアル | **服部一成**

ウェブサイト | **石井喜博 (temple)**

地図 | イラストレーション: **クレメンス・メツラー**
デザイン: **長尾訓寿**

アドバイザー | **竹中克行 (愛知県立大学教授 | 地理学)、茂登山清文 (名古屋芸術大学 | 視覚文化)**



[ストリーミング・ヘリテージ 広報用画像]

広報用参考画像、ポートレートなど画像ご入用の方は press@streamingheritage.jp までご連絡ください。



1



2



3



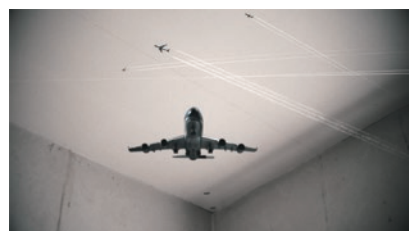
4



5



6



7



8



9



ロゴ



1_Barrack.jpg

Art Space & Cafe Barrack

2_mobium_1.jpg / 2_mobium_2.jpg

MOBIUM 《MOBIUM》

3_sato.jpg

佐藤美代 (音楽: BONZIE) 《alone》2020

4_ito.jpg

井藤雄一 《Driven by Error 展 [RTDex]》2017

5_groundlevel.jpg

グランドレベル 《パブリックサーカス》2017

6_hirakawa_2.jpg

平川祐樹 《TWENTY FIVE THOUSAND YEARS TO TRAP A SHADOW プラン》2021

7_sawa

さわひらき 《/home》2021

*日栄一真+竹市 学: ポートレート (8_1_hiei_po.jpg / 8_2_takeichi_po.jpg) をご使用ください。

ロゴ デザイン 服部一成